

---

# 家庭教ヒットマンリボーン+カブト編+

長谷川隆起

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

家庭教育ヒットマンリボーン+カブト編+

### 【Zコード】

N6491Z

### 【作者名】

長谷川隆起

### 【あらすじ】

家庭教育ヒットマンリボーンの一次創作です。主人公はツナではなく、とあるファミリーのボスとある銀とゆう少年が主人公です

## 修行

十代目の沢田綱吉と手を組む事になつたミリオンファミリーのボス、銀はあるあるパラレルワールドを支配する力を持つ、ファミリー、カブトファミリーを倒すためリボーンへ修業を頼んだ。

並盛り中のグラウンドにはリボーンと銀の姿があつた。リボーンは笑いながら言った。

「お前はツナより力はある。たが、まだファミリーと自分の力を最大限に出し切れていない」

リボーンはレオンを銃の形にして銀に向かつて構えた。

「銀、最初の修行はこれだ」

リボーンは歩いているひばりに死ぬ氣弾を撃つた。ひばりの額には死ぬ氣の炎が宿っている。

「君、私服とは校則違反だよ。学校のふつきを見出す奴はかみ殺す

ひばりはトンファを両手に持ち、銀の方へ走つていった。

トンフアを鮮やかに銀は交わしている。しかし、それを見てリボンは深い顔をしている。リボーンが声を漏らす。

「やつぱりな

リボーンはひばりの所へ行き、言った。

「ひばり、悪いがもういい。帰つてくれ

「じょうがない。今度あつたらかみ殺す

ひばりは学校の屋上へと帰つて行つた。銀は驚いた顔で叫ぶ。

「なんでだよリボーン！――

「まだわかんねえのか」

リボーンはそう言い、銀に殴りかかった。初めの右フックは交わしたが、ほぼ同時にきた蹴りには反応できず、蹴り飛ばされた。

「う！」

リボーンが倒れ込んだ銀の足元に来ていった。

「お前の動きにいら霸気がねえ」

「霸氣?」

「霸氣がねえ動きは簡単にわかる」

「教えてくれよ霸氣ってやつを」

リボーンは一ヤつと笑いながら言った。

「それはお前自身で身につけるんだ仲間と一緒に」

「ファミリー（仲間）と……」

「今日の修行はとつあんず終了だ。今日はママンの特性カレーだ

銀は腹を鳴らしながら沢田家へと走った。

「ただいま」

リビングに行くとランボがカレーをむしゃむしゃと放馬つている。イーピンはツナの母の膝で眠つている。ランボがスプーンで皿を叩き鳴んだ。

「おかわりーーーおこがーーんもたもたしてると、ランボさんが全部食べちゃうもんねーーー！」

ランボがまたむしゃむしゃと食べ始めた。その姿を見て、ツナは申しわけなさそうな顔をして呟つ。

「「」あんよ銀。後でおこしに物お「」るか？」

「小ちこ子はよく食べないとなハハハ」

銀は苦笑いをして本心を「」まかす。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6491z/>

家庭教ヒットマンリボーン+カプト編+

2011年12月21日21時48分発行